

報道発表資料

2016年3月29日

テクトロニクス、ソフトウェア定義解析プラットフォームで ライブ IP メディア制作への移行を牽引

新製品 Prism プラットフォームが SDI と IP メディア信号を繋ぐ関連機能で、
SDI と IP ワールドの隔たりを埋める

テクトロニクス(代表取締役 米山 不器)は、本日、SDI ベースから IP ベースへのスムーズなインフラ移行を可能にする、[業界初のハイブリッド SDI/IP メディア解析プラットフォーム、Prism](#)を発表します。この新しいテスト/診断ソリューションは、4月18～21日に米国ラスベガスで開催される NAB Show(全米放送機器展)のテクトロニクス・ブース(ブース番号:#SU5006)で展示されます。

放送業界は、オール IP インフラへの革新的な移行を始めています。しかしながら、既存の技術やワークフローを移行するためには巨額の投資を伴うため、IP への移行は段階的に行われることとなります。この移行段階において、SDI と IP のハイブリッド設備を管理するエンジニアやオペレータは従来手法との一貫性を持ち、新たな種類の問題点が確認できるテスト/モニタリング・ソリューションが必要となります。Prism は独自の機能で SDI と IP の両方の信号タイプを診断し、関連付けることで、エラーの根本的な原因が IP 層か、コンテンツ層かをすばやく特定できます。

テクトロニクス、ビデオ・プロダクト・ライン、ジェネラル・マネージャのチャーリー・ダン(Charlie Dunn)は、次のように述べています。「Prism は、放送局やコンテンツ・クリエイターが IP 設備を構築するために欠かせないツールです。新しい解析フォームに加え、このような新しい変化において、お客様が既存のワークフロー、能力、インフラを活用できるようにお手伝いすることがテクトロニクスの使命であると認識しています。Prism は、まったく新しいソフトウェア定義解析プラットフォームであり、移行終了後のニーズにも柔軟に対応可能な、将来性のあるソリューションです」

Prism は、Ethernet 接続で IP ストリームとストリームの各コンテンツをすばやく識別できるインプット信号識別を提供します。直感的なディスプレイにより、操作の習熟に要する時間を短縮できます。特に、パケット・インターバル・ヒストグラムとトレンド・グラフはパケット喪失の原因特定に適しています。履歴データ表示を伴うグラフィック・ディスプレイは、間欠的に発生する問題の解決に役立ちます。タイミング表示では、PTP またはブラック・バースト/3 値シンクをリファレンス・ソースとして使用することで、ハイブリッド環境においてエンジニアが信号のタイミングを調整することを助けます。Prism はソフトウェア定義プラットフォームであるため、新しい技術、規格に応じて常にアップデートでき、さまざまなアプリケーションに対応します。

販売開始

Prism の販売開始は 2016 年夏を予定しています。

テクトロニクスについて

米国オレゴン州ビーバートンに本社を置くテクトロニクスは、お客様の測定課題を解決し、直感的に問題点を把握したり新たな発見を促すような、革新的で正確かつ操作性に優れたテスト、計測モニタリング・ソリューションを提供しています。テクトロニクスは70年にわたりデジタルの時代の最前線に位置し続けています。ウェブサイトはこちらから。 jp.tek.com

テクトロニクスの最新情報はこちらから

Twitter ([@tektronix_jp](https://twitter.com/tektronix_jp))

Facebook (<http://www.facebook.com/tektronix.jp>)

YouTube (<http://www.youtube.com/user/TektronixJapan>)

お客さまからのお問合せ先

テクトロニクス お客様コールセンター

TEL 0120-441-046 FAX 0120-046-011

URL jp.tek.com

報道関係者からのお問い合わせ先
テクトロニクス 広報室 瀬戸
電話: 03(6714)3097 Fax:03(6714)3667
Email: seto.atsuko@tektronix.com

Tektronix、テクトロニクスは Tektronix, Inc.の登録商標です。本文に記載されているその他すべての商標名および製品名は、各社のサービスマーク、商標、登録商標です。